

## 浸水対策に係る意識調査

アンケート実施期間 平成28年5月18日 ~ 平成28年5月27日  
 回答者数 197名 (登録者数 471名 うち配信成功数 406名)

### ●性別

男性	140	71%
女性	57	29%
計	197	

### ●年齢

20代以下	6	3%
30代	24	12%
40代	42	21%
50代	36	18%
60代	59	30%
70代以上	30	15%
計	197	

### Q1 過去に岡崎市で起こった大きな水害で知っているものは、ありますか。(複数可)

東海豪雨(平成12年)	150	44%
平成20年8月末豪雨	180	53%
その他	12	4%
計	342	

### Q2 お住まいの住居形態について選択してください。

戸建住宅	153	78%
集合住宅	43	22%
その他	1	1%
計	197	

### Q3 過去に家屋等が浸水したことがありますか。

床上浸水をしたことがある	4	2%
床下浸水をしたことがある	21	11%
ない	172	87%
計	197	

### Q4 浸水対策について取り組んでいることはありますか。

ある	23	12%
ない	174	88%
計	197	

### Q5 Q4で「ある」と回答された方は、具体的な取り組み内容を教えてください。

☆重複する内容はまとめてあります

家の敷地をかさ上げする。
基礎の高さを20cm高くした
33年前、自宅を新築する際、地盤・基礎高を一般より高めにした。また水田を埋め立てた区画整理地につき地盤液状化による家屋の防護対策として木杭打ちを行った。
側溝の整備
マンホール付近の清掃
随時に敷地内の溝等に溜まった土砂の掻き出し。
前の道路が30cmほど冠水したので、町内でも比較的高い土地に引っ越した。
ハザードマップを見て、赤い地域には住まない。
母屋を建て替えた
マンション入り口に止水板を設置した。
側溝の強化 透過水として地層処理
そもそも浸水被害を押さえるために床下は車庫と倉庫という設計にしてある。また、浸水するたびに浸水した高さには濡れて困るものを置かない。浸水する恐れのあるときは車を車庫から避難させる。
データ放送、WEBで河川情報を逐次監視する
町役員として岡崎市等に対し河川の浚渫や堤防の設置を要望

Q 6 大雨時の“逃げどき”などを記した「水害対応ガイドブック」を公表していることを知っていますか。

知っている	41	21%
知っているが、内容までは知らない	58	29%
知らない	98	50%
計	197	

Q 7 過去の浸水状況を記した「浸水実績図」を公表していることを知っていますか。

知っている	55	28%
知っているが、内容までは知らない	48	24%
知らない	94	48%
計	197	

Q 8 大雨時の避難所や避難ルートについて把握していますか。

把握している	48	24%
把握していない	70	36%
避難所は把握しているが、避難ルートまでは考えていない	79	40%
計	197	

Q 9 推進すべきと思う浸水対策を選んでください。（3つまで選択可）

河川・下水道の整備	129	24%
雨水貯留浸透施設の設置（民間を含む）	65	12%
貯留・浸透能力の高い土地の保全及び活用	27	5%
水害リスクの高い地区を公表するなどの情報提供	94	18%
住宅の嵩上げや浸水防止板の設置など、水害リスクを考慮した住まい方の実施	28	5%
水害リスクの低い土地への住宅・都市機能の誘導	29	5%
市街地への浸水実績標識の設置	41	8%
浸水警報装置・浸水監視カメラなどの情報伝達設備の設置	60	11%
出前講座や防災教育などの充実	21	4%
避難訓練などによる避難力の強化	30	6%
その他	12	2%
計	536	

Q 10 雨水貯留浸透施設について知っているものは、ありますか。（複数可）

雨水貯留タンク	138	40%
雨水浸透ます	57	17%
雨水浸透管	23	7%
透水性舗装	113	33%
その他	12	3%
計	343	

Q 11 宅内での雨水貯留浸透施設の設置について、市の助成制度があることを知っていますか。

知っている	22	11%
知らない	175	89%
計	197	

Q 12 市内の水害を軽減するために、雨水貯留浸透施設設置の取り組みを行おうと思いますか。

自費でも設置しようと思う（既に設置している）	5	3%
助成制度があれば、設置しようと思う	61	31%
設置しようとは思わない	131	66%
計	197	

Q 13 住宅の新築や建替え時に、過去の浸水実績等を確認しますか。

確認する	122	62%
確認しない	17	9%
わからない	58	29%
計	197	

Q 14 建築予定地で過去に浸水実績があった場合、どのような対策を行おうと思いますか。（複数可）

住宅の嵩上げ	153	60%
浸水防止板の設置	35	14%
排水ポンプの設置	34	13%
その他	32	13%
計	254	

Q15 住宅の嵩上げや雨水貯留浸透施設などの浸水対策を行う場合、その時期はどのように考えますか。

すぐにでも行いたい	8	4%
助成制度があれば、すぐにでも行いたい	18	9%
住宅の新築や建替え時に行う	116	59%
わからない	55	28%
計	197	

Q16 民間での雨水貯留浸透施設設置を普及するには、どのような施策が必要だと考えますか。  
(複数可)

必要性のPR	122	34%
浸水想定図の公表など、情報提供の充実	114	32%
助成制度	114	32%
その他	10	3%
計	360	

## ● Q 1

知らない
集中豪雨の場合特に坂道では雨水が溢れ出ることがある
伊勢湾台風
昭和46年水害
男川浄水場冠水
昭和46年頃一号线・248号線1m位死没、公園河川敷の車両流された。(二度ほど)
伊勢湾台風、以降の水害のすべて

## ● Q 2

店舗併用住宅
--------

## ● Q 9

家の西隣のどぶは美合駅方面からの雨水や落ち葉で詰まり、毎年氾濫するので困っている。
高い堤防の整備
水害リスクの高い地域へ、水害対策税を課税する
道路の側溝などの清掃及び整備
浸水被害が予想される区域での民間開発の規制
浸水危険性が高い地区の宅地化防止
減災も必要だが、防災が重要。災害が予想される地域の住民が少なくなることが対象となる母数が減ることによって災害を受ける人が減る。災害危険地域に転入を希望している人に情報提供する方策を設けることをお願いしたい。
防災ラジオによる浸水情報の発信
緑のダム(水源地域の森林整備事業と間伐推進)による河川水害の軽減
雨水をいかにためずに流せる排水システム、川、池、側溝、下水へスムーズに流し込むようにする。道路の雨も浸透させる舗装
排水路の整備、清掃等々の保全
何故、浸水が起こったか原因追求

## ● Q10 ☆重複する内容はまとめてあります

知らない
公園地下への雨水貯留

## ● Q14 ☆重複する内容はまとめてあります

そのような土地は買わない
過去に浸水実績があった場所に建築予定はしない。
建設計画の中止
建設自体を再検討する
他の場所に変更する。
分からない
浸水しない場所なので不要
土地を売却した
水囊

## ● Q16

そうした水害自体が発生しにくいような根本的な自然を作る
よくわからない
そもそも浸水の可能性のある土地を住宅地として売買すべきではない。
危険な地域に住まず、引っ越せば良い。
条例による建築規制
モデルケースを用いた事例や活用事例の公開
必要性、効果、助成、費用、蚊等の発生害なども認識する。
建物の平米に対しての条例での義務化
必要性和共に施工方法、こういった理屈でどのような効果があるかや予算などの周知
回覧板などで情報を必要とする地域にPRする。